

大好き！絵本

初瀬 恵美



『ぞうさんどこにいるの?』

作:バルー

訳:柳田邦男

出版社:光村教育図書

今年度も残りわずかとなってしまいました。年長さんと過ごす時間ももう少し……。とっても寂しいです。年下の子達にとっても優しくたのもしい反面、素直に甘えてくれるかわいさもある年長さん。卒園するみなさんに、少しでも興味・関心をもってほしい環境絵本を紹介したいと思います。

『ぞうさん、どこにいるの?』。この絵本にでてくる文章はたったの3行。「ぞうさん、どこにいるの?」「おうむさん、どこにいるの?」「へびさん、どこにいるの?」です。それ以外ページをすすんでも、文章はでてきません。ページをめくって、その3匹を探してゆく絵本です。とても単純なので、小さいお子さんからも十分楽しむことができます。でも実は奥深いメッセージもあり、年長さんでも、その真のメッセージを読み解くには、勉強が必要となってきます。

例えば、この絵本、最初の方は、3匹の動物を見つけにくく、最後になるにつれて、探さなくても目に飛び込んでくるほど容易に見つけることができるのです。「見つけるのが楽しい!」という小さな子にとっては、はしゃぎながら「あった!」「かんた〜ん」と単純に喜ぶことができるほどです。

ではなぜ、最初の方が動物を見つけにくく、後になるほど簡単なのか。それは最初に3匹が住んでいたのは深い森の中だったからです。沢山ある木の形や色は様々で3匹を探すのは容易ではありません。しかし、だんだん木が伐採されて、家が建ち始め宅地化されていくと、住む場所を追われて、見つけやすくなっていくということです。絵をじっくりみたり、その絵からいろいろ想像できるようになると「あ!ここ 木がない」「家がいっぱい!車もある!」「なんで家倒れてるの?」と質問が次々にでてくるようになります。そんなときが、真のメッセージの環境破壊について考える絶好のチャンスです。

10代のグレッタさんが、自分で学び、自分で考え、自分の言葉で今の地球温暖化について、訴えかけているように、私たち大人も環境問題について、真剣に考え、子どもたちと話ができるようになりたいものです。そのきっかけとして、巣立ちゆく年長さんと共に、この絵本で語りあえたらと思います。